



第22回例会(12月14日)
平成25年1月18日発行

クラブ事務所	岩手県盛岡市菜園1丁目10 川徳デパート内	会 長	藤村 文昭
例 会 場	同上 TEL(651)1111(代) FAX(653)5622	幹 事	佐藤 重昭
例 会 日	毎週金曜日12時30分～	会 報	福田 荘介
		クラブ直通電話	TEL(653)5682

奉仕を通して平和を Peace Through Service..... RI会長 田中作次

会員卓話

「最近の金融経済動向」



(株)岩手銀行 代表取締役頭取
高橋 真裕 君

私が来年を考えると、5つのキーワードでどのようになるのか、説明したいと思います。それから、来年が大変な年になるだろうと予測する中、商売の原点に立ち返って考えたとき、どういった力を必要とするか、お話ししたいと思います。

5つのキーワードで予想する
2013年の金融経済動向

1つめのキーワードは「経済構造の変化」。現在の日本の経済金融環境は、財政赤字が大変ですが、拡大には一定の歯止めがかかっている状況です。貿易収支が今年は拡大しているので、まだ黒字が続いている。それが円高デフレを引き起こしている構図です。さらには低金利が続く、それが歯止めのひとつになっています。企業は、円高の背景から資金需要が出てこないこともあります。それが結果的に国債等に向かい、低金利に繋がっています。来年以降、高齢化がいつそう進展する中、財政の赤字が拡大する懸念が出ています。高齢化で年金受給者が増えるだけでなく、加齢とともに医療費や介護費が増えていく。それに伴い、財政赤字はこのままでいけば大幅に拡大します。そうした懸念が出る

中、経常収支が縮小して赤字化する可能性が高くなっていきます。経常収支の縮小あるいは赤字になる場合、さらに円高の進行が出てくる懸念が大きくなります。世界経済の潮流は確実にインフレに向かうだろうという予想が出ています。これを背景に、日本のデフレ基調も曲がり角に進むとすると、輸入物価が上昇に転じて、超安定状態にある日本の物価が解消されることが予想されます。そうすると、日本国債バブル崩壊のリスクが高まり、金利上昇リスクの深刻化が避けられない方向に進むことが予想されます。財政赤字が拡大するということは、社会保障制度そのものの不安定化がいつそう進行することにも繋がります。今までの経済金融環境がガラリと変わってしまう構図が今後、出てくることを予想されます。

2つめは「世界経済減速の懸念」。ヨーロッパは債務危機が今年後半、だいぶ安定してきました。安定化策が功を奏しているのですが、また同じように不安定な状態になることが繰り返されてきました。それが今後も続くことが予想されると、私は考えています。アメリカの場合、景気の回復が比較的進むのではないかと考えています。アメリカより中国に懸念材料

がある。新しい政権になりましたが、中国では年間20万件以上の暴動が起きていると言われていて、そうした社会の不安定化が経済に及ぶ懸念もあります。世界経済に良い材料は少ないのですが、来年の中頃からは少しずつ回復すると考えています。

3つめに「エネルギー政策の見直し」です。来年にかけて各電力会社の電力料金の値上げが申請されて、それが実施される段階になると、さまざまな影響が出ると考えています。太陽光発電などの再生可能エネルギーが今、非常に注目を集めていますが、それが主要な電力エネルギーに成り得ないことは、皆さんもご承知だと思います。仮に、そうしたエネルギーが中心になったとしても、買い取り価格が非常に高いということで、料金の価格の引き上げに繋がり兼ねない。回り回って考えると、果たして日本の製造業が日本での生産拠点をこのまま維持できるのか。今後、取り沙汰される可能性が高くなります。

それから、4つめに「日本企業のグローバルな競争力の弱体化」があります。ご承知の通り、シャープ、パナソニック、ソニーが大幅な赤字決算を続けています。薄型テレビのシェアを2005年と2011年で比較してみると、日本のメーカーがトップシェアまたは上位で頑張っていたのですが、たった6年の間に韓国メーカーに席巻されてしまった状況です。なぜかという理由はこれから詳しく分析するべきでしょうけれども、やはりデジタル技術はスピードが速くて、値下げの圧力も強い中、対応が遅れてしまったのだと思います。日本の家電メーカーは良い商品を造れば必ず売れるという強い思い込みの中で商品開発を行ってきましたが、残念ながら世界競争の中では充分に受け入れられなかった。マーケティングなどに優れた韓国メーカーが躍進したのだと思います。

それから5つめの「金融円滑化法の終了」。

来年3月で金融円滑化法が終了することによって倒産が相次ぐのではないかという間違った報道や認識があります。「銀行の対応は従前と同じような対応が続きます」と言いたい。金融円滑化法は、金融庁のマニュアルにそのまま踏襲されますから、この法律の施行が終わったからといって今までの考え方が180度変わることはないのご理解いただきたいと思います。

経営を考える 5つの「力」

5つの力が会社経営をしていく中で重要ではないかと考えてご紹介したいと思います。

1つは「人間力」。人間として生きていく上で総合的な魅力ととらえてもらえればよろしいかと思えます。人間力を分解すると、スキル＋人間性、あるいは人間が持つ魅力という2つの要素になると思います。支店長になる者であれば相応のスキルを持っているものですが、残念ながら人間的な魅力については千差万別です。スキルだけではなくて、人間性あるいは人間的な魅力があって初めて部下が「この支店長について、何とかやりたい」という思いを持つ。それが支店の全体的な力になり、実績が上がっていくという背景があり、その中で支店長も伸びていくと、私はみております。「人を育てる」と私たちが考えるとき、スキルを伸ばす研修ばかりをやってきたように思いますが、これからは同時に人間としての魅力をアップさせることを研修の際にも取り入れることが大事になっていくのだろうと考えています。

それから「感謝力」。プロゴルファーの古市忠夫さんがNHKのゴルフ番組に出演していたところをたまたま観ました。この方は阪神大震災のとき、自宅とカメラ屋の店舗を失ってしまった。たまたま別な場所に置いていた自家用車のトランクにゴルフバッグを積んでいた。これを「神様の『もっと練習を積んでプロになり

なさい』というお告げ」と解釈して、プロゴルファーになる決心をしたそうです。そのとき、58歳だったと記憶しています。プロテストを受けて2年目に合格した。この人は「ゴルフ上達の最大の武器は『感謝力』だ。プレーできることへの感謝、どんな悪天候でも挑戦できることへの感謝、頑張れることへの感謝だ」と言っていたのです。仕事をもっと素晴らしいものにしていくために、何が重要かということのひとつが感謝力だと私は思いました。感謝する・される関係をいろいろなところに創っていく。これが非常に大事なポイントだろうと感じています。

それから「繋ぐ力」。被災した企業の多くが生産体制を整えつつあり、製品が出回るようになりました。その中で大変な課題は「一度失った販売先をどう再構築するのか」ということです。私たちは、さまざまな意味で「繋ぐ」ということをもっと考えなければならぬだろうと思っています。皆様方のご商売でも人と人を繋ぐ、人と企業を繋ぐことにより、繋ぐ力を高めていくことで、社会に貢献できると思います。

それから「現場力」。震災で日本メーカーのサプライチェーンがズタズタになってしまいましたが、短期間のうちに非常なスピードで前倒しに回復したことは、世界的に驚異としてとらえられたと思います。日本のものづくりの現場が非常に実力を持っていて、まだまだ捨てたものではないと、私たちにも認識を持たせた出来事でした。こうした現場力をこれからも大事に

していかなければならぬだろうと思っています。経営者という立場になっても、現場でどんなことが起きているのか、またどういう手を打たなければならないのか。どう対応していくのか、考えることが大切だと思います。

最後に「変革力」。経営環境が変わっていく中で、立ち止まっていたのでは経営がなかなか思うようになっていかぬだろうということで、一例として少子高齢化の話をしたいと思います。個人の金融資産は1500兆円といわれていますが、その中で50歳以上が持っている金融資産の割合は81%。こうした個人資産をどうやって消費に結びつけて行くか。そうしたことを考えていかなければならないと思います。それから、銀行の窓口に来るお客様の割合は、全口座数のたった2割に過ぎない。あとの8割は年に一度も来ない。そうした8割の人に、どうやって銀行に足を向けてもらうようにするのか。あるいは2割のお客様にどうやってサービスをしていくのか。こうしたことを考えなければならぬ。それから、硬貨の流通量が減っている。スイカのようなカードが普及していて小口の決済は硬貨を使わずに済ませることが多くなっている。こうした変化に対しても、考える必要がある。会社にとって真の危機とは、現状に安住してしまうことにあると思います。変わっていく力を大事にしていきたいものです。

来年も大変な年になると思いますが、自分が考えるさまざまな力で突破していく一年にしたいものだと思っています。

年次総会

「次年度理事・役員について」

平井 滋 次期会長

2013～2014 年度 理事及び役員

会 長	平井 滋	国際奉仕委員長	坂本 広行
副 会 長	福田 荘介	新世代委員長	星 克彦
副 会 長	岩野 法光	幹 事	平野 佳則
次期会長	長澤 茂	副 幹 事	樋山 桂
直前会長	藤村 文昭	副 幹 事	古山 明廣
クラブ奉仕委員長	佐藤 重昭	S A A	吉江 信博
職業奉仕委員長	熊谷 隆司	会 計	飯塚 肇
社会奉仕委員長	千葉 隆史	副 会 計	白石 茂

例 会 報 告

第 22 回例会
平成 24 年 12 月 14 日(金)

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘
- ・司 会 藤村文昭会長
 - ・ソング 我らの生業
 - ・四つのテスト斉唱
 - ・皆出席バッチ 樋山 桂君(2年)
 - ・入会祝 樋山 桂、高橋真裕君。
 - ・誕生祝 高橋真裕、盛田洋太郎、伴 亨、平井 滋君。
 - ・幹事報告 佐藤重昭幹事
終了後臨時理事会開催

【ニコニコ BOX】

- ◆勝部民男君…1. お世話になった方の葬儀があり、今日は欠席させていただきます。1. 遅くなりま

したが(私は何もせずノホンしていましたが)年次報告を致します。飯塚幹事ご苦勞様です。1. 高橋頭取の卓話有難うございます。年1回ではなく4回ぐらいはお聞きしたいと思います。

- ◆飯塚 肇君…11日早朝に長男夫婦に長男が生まれました。3人目の孫が授かりました。感謝してニコニコします。大変遅くなりましたが前年度報告書ができました。よろしくお目通し願います。

- ◆佐藤重昭君…①今年最後の卓話を高橋会員の素晴らしい卓話でして頂いたことを祝して。
②本年度の復興支援特別委員会の事業が無事終了したことを祝して(今年のはじめての雪の区界は少し恐かったです)。

- ◆近藤 駿君…今日もお昼ご飯の数が足りなくなりました。出席数が増えていることに対するご褒美と

してか皆さまとちがう豪華なお昼をいただきました。また高橋会員と村井会員お二人一緒の出席の相乗効果が出たと思います。感謝して。

- ◆樋山 桂君…当クラブの仲間に加えて頂き、早2年が経過いたしました。お蔭様で楽しく過ぎて頂いております。今年度は副幹事としてもしっかり役割を全うしたいと思います。また年明け3月GSEのホームステイ受入れも皆さまご協力のほどお願い申し上げます。

- メイクアップ
地区=加藤・金子君。盛岡東R.C.=星君。盛岡西北R.C.=伴君。クラブ委員会=熊谷(隆)・長野・勝部・西島君。

出席報告 □ 会員数 /64 名 □ 出席数 /40 名 □ 出席率 /70.17% □ 前々回修正出席率 /89.09%

プログラムの
お知らせ

- ・ 12月 21日(金) 年忘れ家族会
- 28日(金) 特別休会
- ・ 1月 4日(金) 特別休会
- 10日(木) 新年慶寿の会 (11日例会変更)

- 本号編集担当 / 佐藤 義正
- 次号編集担当 / 矢後 勝洋